

11) 土工事は、広域的な掘削エリアの出現を極力抑えるため、年次毎に施工エリアを決めて進める計画とした。

土工事は、広域的な裸地の出現を極力避けるため、年次毎に施工エリアを決めて進める計画とし、濁水の発生、粉じん等の飛散を極力抑える。

12) 資機材運搬車両等の運行経路の往路、復路を別経路とする。

13) 法面や滑走路周辺の緑化は、現地における生態系に変化を与えないために、可能な限り現地の植物を利用する。

法面や滑走路周辺の緑化に当たっては、現地における生態系に変化を与えないために、可能な限り現地の植物を利用する。また、セッカ等の生息環境に大きな変化を与えないよう、造成後速やかに行う。

14) 飛行経路は、周辺環境の航空機騒音の影響を低減するために、集落と集落の間を通過するルートを計画している。

15) 地下水への影響を低減するため、盛土構造内に雨水を地下浸透させる浸透層（ドレーン層）を設置する。

盛土構造内に雨水を地下浸透させる浸透層（ドレーン層）を設置し、空港表面の雨水を現況と同じ地盤中に地下浸透させ、現況の流出機構を可能な限り変化させないようにする。また、空港南側やターミナル付近の難透水層の区域については、現況の流況を可能な限り変化させないように轟川や既設排水路へ排水する。

16) 空港施設北側の小河川及び北側進入灯部分の小河川は、ボックスカルバートを設置し、海までの水路を形成するとともに、回遊性の水生生物の往来の場としての機能を確保する。

空港施設北側の小河川及び北側進入灯部分の小河川は、ボックスカルバートを設置し、空港施設による上流部と下流部の水路を分断せず、海までの水道を形成するとともに、回遊性の水生生物の往来の場としての機能を確保する。

17) 空港利用車両によるロードキル等による影響を回避・低減するため、動物の横断についての注意看板を設置する。

18) 航空障害灯の設置工事に当たっては、カンムリワシの繁殖期に影響を及ぼさないよう、施工時期及び施工方法に配慮する。

航空障害灯の設置工事に当たっては、カンムリワシの繁殖期を避けて雛の巣立ちから次の繁殖シーズンが始まる前（9～11月）に終了する。